

銭湯と周辺空間構成の関係性および変遷履歴に関する研究

1G02j016-2 大井祥吾^{*1}

Shogo Oi

日本文化特有の公共施設である「銭湯」と街のつながりを探り出し、それらが織り成す「空間の特性」を見出すことを目的とする。現在ほどのような街との繋がりを持っているのであろうか。本論文では、東京都内山の手線周辺を対象とし、銭湯と周辺地域との関係性・空間変遷の履歴・現在の空間の構成を分析した。また銭湯利用者にとっての銭湯周辺の空間に関するイメージを調査した。その結果、銭湯の立地や外観に、周辺地域との関係性が強く現れることがわかった。またアンケート調査からも、銭湯と周辺空間には抱かれる一定のイメージがあり、空間構成の違いによってはイメージに変化があることがわかった。

Key Words : 銭湯 空間構成 立地特性

1. 研究の背景と目的

現在東京各所で都市再開発が行われ、高層ビルや巨大なショッピングモール等が数多く計画・建設されている。土地から生み出される経済効果や土地利用の合理性の観点から見れば、これら開発は効率的なものであると考えられる。しかしながらまた、東京にはまだまだ低容積の木造住宅地や、小規模店舗が軒を連ねる商店街など、古くからの東京を感じさせる街並みが残存しているのは事実である。再開発を始め、高容積化の進む東京ではあるが、先に述べたような従来からの建物を残す東京の街並みも、都市東京の持つ魅力ある景観ではないだろうか。

このような古い街並みをイメージさせる施設として、銭湯が東京には数多く存在する。近年テレビドラマやマンガ等多くのマスメディアが下町や古い街並みを表現する時、銭湯の煙突が出現するカットを用いる時がある。昔から銭湯を利用してきた地域住民にとって、銭湯とその周辺は原風景であり、また日頃銭湯を利用しない者にとってもそれは下町風情や古き東京の街をイメージさせる風景となっているのではないだろうか。

現在、東京に残る銭湯は年々減り続け、また銭湯の全てが古い建物であるというわけではなく、周辺の空間も日々変化している。しかしながら、現在残る銭湯にも昔と変わらず客が通い、また減り行くその姿は惜しまれている⁽¹⁾。

本論文では、銭湯と周辺の街並みの関連性と空間の特性を分析し、東京に今も残るであろうと考えられる日本文化特有の公共施設である銭湯と街のつながりを探り出し、それらが織り成す空間の特徴を見出すことを目的とする。

2. 研究の概要

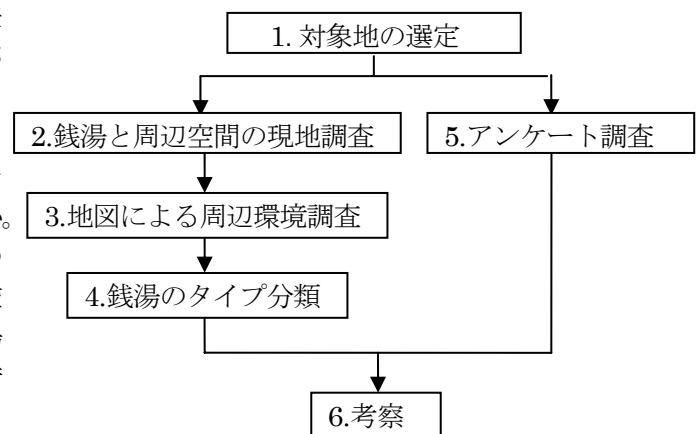
2. 1 研究の位置づけ

銭湯とその周辺空間に関する既存研究には、「東京

都練馬区を事例とする銭湯の立地特性と空間構成に関する研究⁽²⁾がある。そこでは、銭湯の立地する周辺道路環境及び周辺商業と銭湯の関係性が分析されており、銭湯は住宅地とその他地域との境界面に接する立地が多く、また周辺商業は滞在時間を要するものが多いなど、銭湯とその周辺地域に関連性があることを示している。本研究では上記の研究を参考にしつつ、それに加えて銭湯そのものの外観と周辺空間の関係性及び周辺空間の時間変遷を調査し、現存する銭湯と周辺空間の関係性を分析する。さらに銭湯にアンケートを設置し、銭湯と周辺空間の関係性に加え、銭湯利用者の銭湯周辺空間に関するイメージを調査した。

2. 2 研究の流れ

先の目的に対して以下の手順で行う。



3. 研究内容

3. 1 研究対象の選定

東京都の中でも最も古くから宅地開発が為され、山の手線内外を跨ぐ六区（渋谷区・新宿区・中央区・千代田区・文京区・港区）を対象地域とした。東京都公衆浴場組合の銭湯マップによれば、現在東京中央 6 区

*1 早稲田大学理工学部社会環境工学科景観・デザイン研究室 4 年

には 98 箇所 of 公衆浴場組合加入の銭湯が現存する。これら全て調査対象とした。



図 3.1 6 区内の銭湯の立地

表 3.1 対象銭湯一覧

銭湯名	地域	銭湯名	地域
1 豊川浴泉	目白台	1 栄湯	笹塚
2 月の湯	目白台	2 武の湯	幡ヶ谷
3 浴場熱海	音羽	3 天龍泉	本町
4 大黒湯	大塚	4 観音湯	幡ヶ谷
5 大正湯	大塚	5 仙石湯	西原
6 君の湯	大塚	6 かねき湯	本町
7 おとめ湯	千石	7 玉川湯	本町
8 日の出湯	本駒込	8 羽衣湯	本町
9 富久の湯	千駄木	9 第五良の湯	代々木
10 鶴の湯	千駄木	10 天神湯	代々木
11 シビックランド	本郷	11 奥の湯	代々木
12 菊水湯	本郷	12 長生館湯	千駄ヶ谷
13 歌舞伎湯	小石川	13 鶴の湯	千駄ヶ谷
14 白山浴場	白山	14 大黒湯	西原
15 富士見湯	白山	15 八幡湯	富ヶ谷
16 光栄湯	白山	16 さかえ湯	東
17 宮の湯	根津	17 改良湯	東
18 山の湯	根津	18 新橋湯	恵比寿
19 栄湯	西落合	19 宝来湯	恵比寿
20 福の湯	下落合	20 松の湯	広尾
21 シノ輪湯	上落合	21 広尾湯	広尾
22 松の湯	上落合	22 世界湯	日本橋人形
23 5ゆーざ中井	中落合	23 木村湯	日本橋蛸殻
24 梅の湯	上落合	24 銀座湯	銀座
25 竜の湯	上落合	25 入船湯	入船
26 8世界湯	馬場	26 湊湯	湊
27 9福の湯	馬場	27 金春湯	銀座
28 10桜の湯	馬場	28 7寿湯	築地
29 11金泉湯	早稲田	29 8日の出湯	佃
30 12松の湯	早稲田	30 9旭湯	佃
31 13鶴巻湯	鶴巻町	31 10月島温泉	月島
32 14第二弁天湯	喜久井町	32 11東湯	月島
33 15大黒湯	早稲田町	33 12勝どき湯	勝どき
34 16松の湯	山吹町	34 1 バンドウーシュ	麴町
35 17金成湯	中里町	35 2梅の湯	神田神保
36 18竹の湯	改代町	36 3稲荷湯	神田
37 19第三玉乃湯	白銀町	37 4お玉湯	岩本町
38 20熱海湯	神楽坂	38 1清水湯	南青山
39 21柏湯	北新宿	39 2銭の湯	麻布十番
40 22松の湯	百人町	40 3竹の湯温泉	南麻布
41 23万年湯	大久保	41 4小山湯	三田
42 24金沢浴場	新宿	42 5万才湯	芝
43 25東宝湯	新宿	43 6ふれあいの湯	芝
44 26弁天湯	余丁町	44 7三越湯	白金台
45 27大星湯	市谷台町	45 8玉菊湯	白金台
46 28柳湯	市谷柳町	46 9高輪浴場	高輪
47 29天神湯	北新宿		
48 30梅月湯	西新宿		
49 31第二良の湯	西新宿		
50 32蓬萊湯	四谷		
51 33塩湯	三栄町		
52 34若葉湯	若葉		

3. 2 銭湯と周辺空間の実地調査

上述の銭湯 98 箇所に対して、銭湯の特徴および周辺の空間構成を調査するため以下の表 3.2 の項目について調査を行う。なお調査対象とする周辺空間は、銭湯の道路に面する正面入り口を中心とする半径約 50 メートル内とした。これは周辺から銭湯の煙突を容易に確認できる距離であり、銭湯と繋がりある空間と考えられるためである。

表 3.2 銭湯およびその周辺空間調査項目

銭湯外観	
建築様式	ビル化・唐破風造りなどの分類
外壁の外観	木造・タイルなどの外壁素材と経年変化等の特徴
煙突の有無と形態	有無と形状やその高さ
ランドリーの有無	コインランドリーの有無
自動販売機の有無	店頭での自動販売機設置の有無
銭湯が接する道路構造	
道路の格	大通り・街路などの分類
道路の幅	銭湯が接する道路の幅
道路の形状	カーブや行き止まりなどの特徴
交通量	歩行者や自動車などの交通量
銭湯周辺の空間構成	
周辺建物外壁の外観	周辺建物の外壁の素材と経年変化等の特徴
道路の入り組み	周辺道路の入り組み度合い
高度や傾斜	銭湯の立地する高度の周辺地域との比較、傾斜の有無
業種	銭湯周辺に立地する店舗の業種



図 3.2 唐破風造りの例 (文京区 菊水湯 本郷)

3. 3 地図による周辺環境調査

3. 3. 1 用途地域と銭湯の関係性

銭湯と用途地域の関係性から、その立地特性や用途地域ごとの特徴を分析する。

3. 3. 2 土地利用現況図による周辺空間調査

銭湯周辺空間の土地利用や建物高度および建物構造を調査する為に、対象となる区役所発行の土地利用現況図 (用途・構造 (防火目的)・階数) を用い、周辺空間に存在する建物の状況を把握する。



図 3.3 土地利用現況図 (構造・階数図) による調査例⁽³⁾

これによって周辺空間の建物に商業利用が占める割合、構造素材別の割合、平均階数を算出する。

3. 3. 3 旧地図による周辺空間変遷調査

調査対象とした銭湯について、それぞれの立地地域の変遷を把握する為に、入手可能であった明治 40 年前後の地形図および昭和 40 年代および平成 16 年前後の三種類の住宅地図を用いて分析を行う。現在ある銭湯は戦後初期に建てられたものがほとんどで、その後改

築・改修を経て現在に至っている。明治時代の地図は、銭湯の立地以前の土地利用の状況を調査する為に分析し、立地特性を探る。

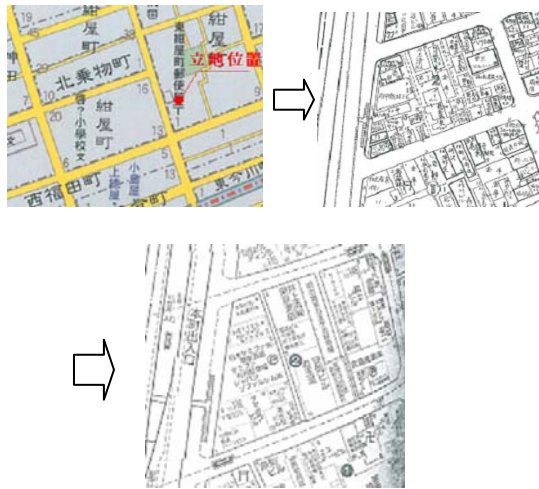


図 3.4 千代田区岩本町 お玉湯周辺地域の
明治・昭和・現在の比較 (4) (5) (6)

3. 4 銭湯と周辺空間調査結果

3. 4. 1 銭湯外観

①建築様式

対象となる銭湯 98 件中、唐破風造りを残しているものが 20 件、一戸建てのものが 28 件、ビルの 1 階部や地下化など、ビル化したものが 50 件見られた。

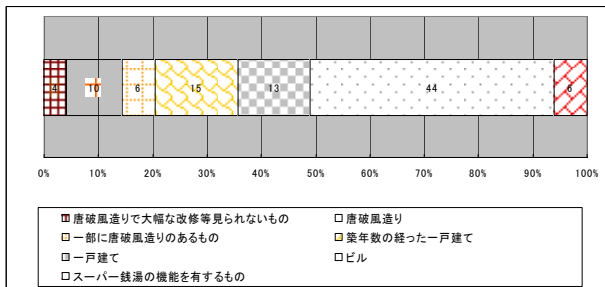


図 3.5 銭湯の建築様式

②銭湯外壁

図 3.4 のように外壁は構成されていた。タイルが多くの割合を占めるのは、外壁の防火に加えて湯や風呂場を連想させる効果があるためだと考えられる。

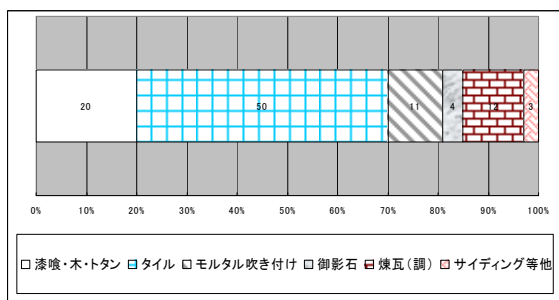


図 3.6 銭湯の外壁素材

③煙突の有無と形状

一戸建ての銭湯には円柱型が、ビル化したものには四角柱型が多く見られる。ビル化したもの多くでは煙突を確認できなかった。低層住宅地等では煙突がよく映えて見え遠方からも視認出来る。

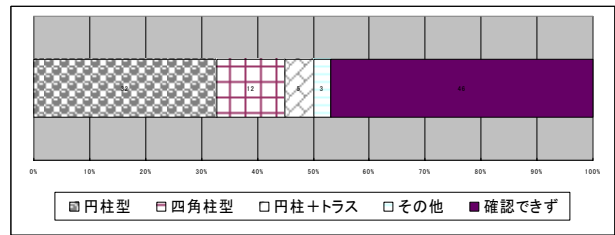


図 3.7 煙突の有無と形状

銭湯の外観調査において、他の項目では、コインランドリーの併設が 59 件 (60%)、自動販売機の店頭併設が 51 件 (52%) 確認できた。

3. 4. 2 銭湯が接する道路構造

①道路の格と幅

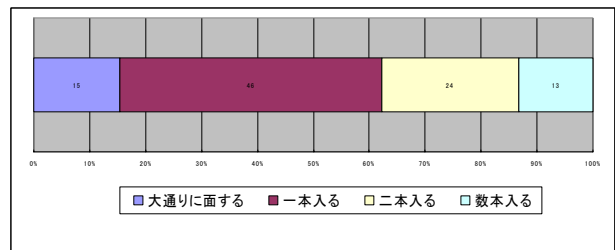


図 3.8 大通りから銭湯への接道

大通りに面する銭湯よりも、大通りから一本か二本入る道に面して銭湯は多く立地していると言える。また道幅も 3 から 4m と細い街路程度のものが最も多い。

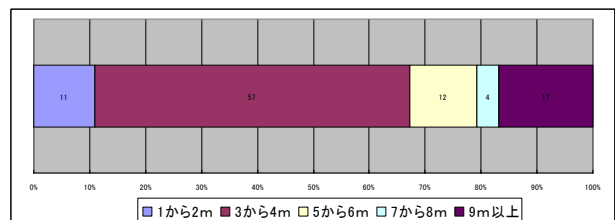


図 3.9 銭湯の面する道幅

その他、カーブや行き止まりなどの道路の特徴は確認できなかった。しかしながら、三叉路の突き当たりに立地し、街路のアイストップとなっている場合が 8 件確認できた。



図 3.10 銭湯がアイストップとなる街路例
(渋谷区 玉川湯 本町)

3. 4. 3 銭湯周辺の空間構成

① 銭湯と商業集積

銭湯と周辺に集積する店舗の業種を集計した。

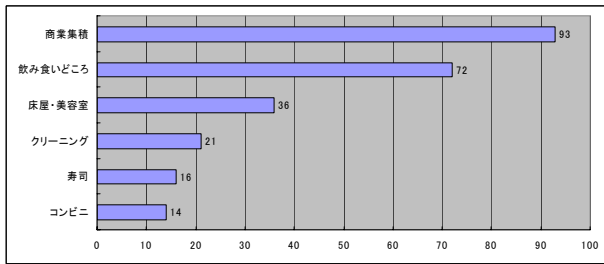


図 3.11 銭湯と商業集積

過半の銭湯の周りには商業集積があり、うち飲食店が立地する傾向が強い。また次に多く見られたコンビニや寿司屋と比較しても床屋やクリーニングが高確率で近隣に立地していると言える。

② 銭湯と周辺建物

周辺建物の外観、傾斜の有無、道の入り組み、の項目でははっきりした特色や関連性は確認できなかった。周辺建物の階数および構造については 3. 5. 2 の結果により特色がわかる。

3. 5 地図による周辺環境調査結果

3. 5. 1 用途地域と銭湯の建築様式

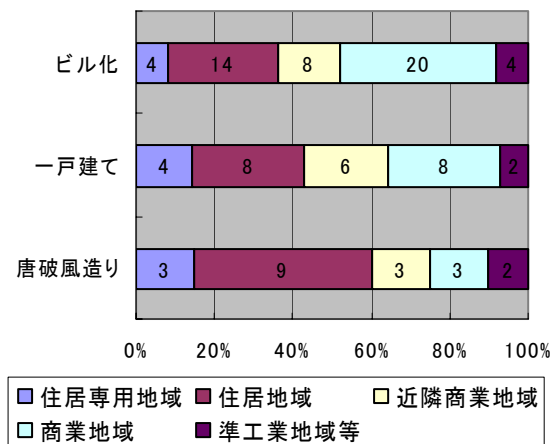


図 3.12 銭湯の建築様式と用途地域

ビル化しているものほど、高容積の用途地域に立地しており、逆についてもその傾向が見られる。

3. 5. 2 土地利用現況図による周辺空間調査

周辺空間に存在する平均階数・構造・用途を分析した結果、銭湯の建築様式とそれぞれ関係性があることがわかった。また、銭湯周辺にはビル化が進んでいる地域においても、非防火の構造物が千代田区以外では少なからず残っている。

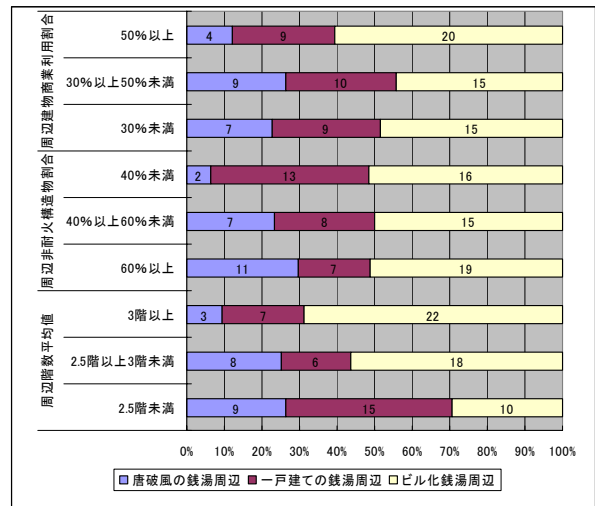


図 3.13 銭湯の建築様式と平均階数・構造・商業利用

3. 5. 3 旧地図による周辺空間変遷調査結果

周辺地域がビル化など大きく変化している場合、銭湯もその外観を変えているものと捉えられる。また明治期の環境と銭湯の建築様式に若干の関連が見られた。

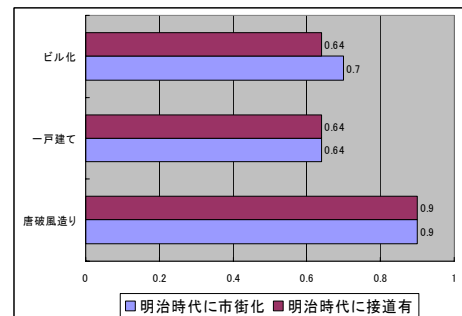


図 3.14 銭湯の建築様式と明治時代の周辺空間

4. 銭湯の立地タイプ分類

3 章の調査結果から、銭湯及びその周辺空間を数タイプに分類する。

4. 1 分類結果

① 大通り適応型 (15 件)

用地地域において、商業地域など高容積率で商業空間が形成されている地域にこの銭湯タイプが多く見られる。周辺空間にはオフィスビル、洋風のレストラン等が建ち並び、銭湯をイメージさせるような景観とは殆んどなっていない。銭湯の作りや看板などの外観及び銭湯内の設備は古い形を取らず、集客性に重点が置かれたサウナや多種類の浴槽等の設備が配備されている。戦後初期には一戸建てであった銭湯も、土地の有効利用の観点や集客性向上の為に、ビルの一部やレジュー施設のような外観へと変化している。このタイプでは全て幅員 10m 以上の通りに面し、ビルであるものが 11 件、一戸建てのものが 2 件、唐破風造りを残すものが 2 件分類された。



図 4.1 事例 シビックランド日成 文京区

②住宅変遷適応型 (21 件)

周辺の住宅地のマンション化等によって、従来あった一戸建ての銭湯が周辺の宅地変化に適応してビル化したと考えられるものがこのタイプに当てはまる。戦後初期と現在の比較で宅地利用のあり方が大きく変化した地域に見られる。銭湯の建築様式は全てビルである事例によって占められた。



図 4.2 事例 桜の湯 新宿区

③商業地立地型 (21 件)

商店街の一角に立地するものが、10 件、それ以外で高域な商業地に立地するものが 11 件分類された。商業地においても後述で分類する⑤「旧商業地一体型」とは違い、こちらのタイプでは、周辺建物の階数が様々で、銭湯自身も唐破風造りやビル等様々である。特徴として、このタイプの銭湯は多くの場合、商業地のおよそ中心に位置している。隣接する業務に銭湯との関連性は見られるといえないが、クリーニング店や床屋が近隣にあることが多い。ビルであるものが 7 件、一戸建てのものが 12 件、唐破風を残すものが 2 件分類された。



図 4.3 事例 ゆーざ中井 新宿区

④住宅地立地型 (20 件)

銭湯は商業地から離れた住宅地の中にも多く立地する。銭湯自体は、先述した商業地立地型のものに比べ、唐破風造りや経年変化をしたトタン造り等、時間を経たものが多い。また住宅地の中に立地している銭湯の周辺にも商業集積が見られ、この分類でも 18 件についてこのことが言える。集積業種では、居酒屋・クリーニング屋・床屋が多く見られた。7 件がビル、9 件が一戸建て、4 件の唐破風造りが分類された。



図 4.4 事例 光楽湯 文京区

⑤旧商業地一体型 (9 件)

古くから形状や容積率の変わらない商店街のその一部として立地した銭湯がこの分類に当てはまる。周辺の商業店舗が銭湯と同じような高さや、年代を感じさせる構造であることが多く、銭湯が周りの建物のなかに溶け込んでいるように感じられる。一戸建てのものが 5 件、唐破風のものが 4 件分類された。



図 4.5 事例 宮の湯 文京区

⑥旧住宅地一体型 (12 件)

古くからある低層住宅地がほぼそのままの姿で残っている地域に立地する銭湯がこのタイプに分類できる。これら多くの銭湯の接道は、現在も戦後直後もほぼ変わらぬ接続や道幅をとっており、周辺の宅地利用の形態や人口密度もあまり変わってはいないと言える。一戸建てで瓦屋根など古く和風な造りのものが多い。この分類においても、同町内の地域に比べて商業集積が銭湯周辺のみ局所的に見受けられる。一戸建てのものが 4 件、唐破風造りのものが 8 件分類された。



図 4.6 事例 小山湯 港区

5. 銭湯と周辺空間に関するアンケート調査

5.1 アンケートの実施内容

銭湯と来客の関係性及び来客が抱く銭湯周辺のイメージを調査するため、熱海湯（大通り適応型）・日の出湯（宅地変遷適応型）・豊川浴泉（旧商業地一体型）・月の湯（旧住宅地一体型）の 4 タイプ 4 箇所にてアンケート箱を設置した。アンケート項目は以下の通りである。

表 5.1 アンケート調査内容

アンケート項目	
性別・年齢	
銭湯への来客頻度	
銭湯までの移動時間と手段	
銭湯周辺のイメージ	(明るい・暗い・にぎやか・静か・新しい・古い・良い・悪い)
銭湯周辺の今後のあり方	(特になし・新しくすべき・保存すべき)

5. 2 アンケート結果

回収可能であったサンプル数は 69 件であり、以下のような集計となった。

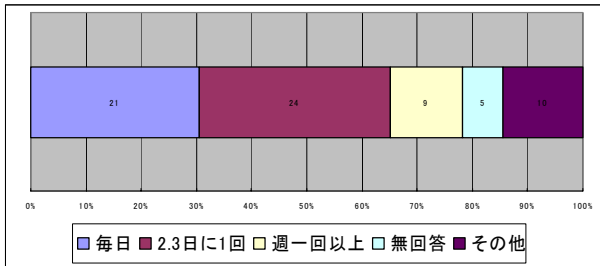


図 5.1 銭湯への来客頻度

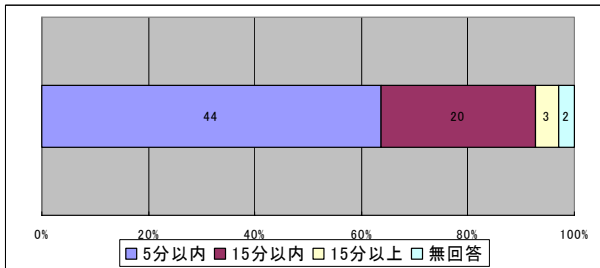


図 5.2 銭湯までの所要時間

またタイプ別では以下の結果が得られた。

①月の湯 (旧住宅地一体型) サンプル数 22

周辺平均階数 2.24 階 正面道路幅 2m

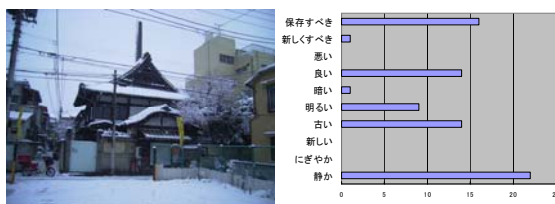


図 5.3 月の湯 周辺イメージ

②豊川浴泉 (旧商業地一体型) サンプル数 17

周辺平均階数 2.30 階 正面道路幅 3m

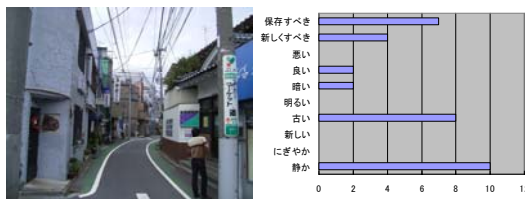


図 5.4 豊川浴泉 周辺イメージ

③日の出湯 (住宅変遷適応型) サンプル数 12

周辺平均階数 2.81 階 正面道路幅 5m

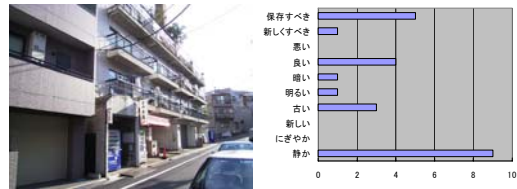


図 5.5 日の出湯 周辺イメージ

④熱海湯 (大通り適応型) サンプル数 18

周辺平均階数 5.45 階 正面道路幅 20m

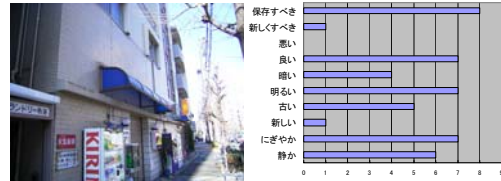


図 5.6 熱海湯 周辺イメージ

アンケートの結果、回答者の多くは銭湯の常連客であり、銭湯までの移動所要時間も 9 割以上が 15 分以内となっている。銭湯に対するイメージでは、旧商業・住宅地の立地銭湯においては、周辺空間は古いというイメージが多く、旧住宅地区の月の湯では、その周辺空間を保存すべきという意向が 7 割を超えている。また、どの銭湯にも共通して周辺空間は静かであるというイメージを抱かれているようだ。

5. 考察

現存する銭湯は周辺地域の移り変わりに適応し、周辺地域の建物階数や構造に合わせる形態の変化を遂げている。また逆の側面もあり、銭湯周辺という空間はクリーニング屋や床屋といった古くから存在する小規模店舗の商業集積を今に残しているものと推測出来る。これは町田氏⁽⁷⁾の述べる「以前床屋に洗髪サービスが普及していなかった頃、散髪後にすぐ洗い易いよこのことで隣接した」という説が示すような、銭湯と街の繋がりを表わす空間構成であると考えられる。銭湯の利用客の意向からもわかるように、時代によって東京の都市空間は変わろうとも、「静か」で「古く」また「残って欲しい」と考えられる銭湯と空間は未だ身近なところに存在している。銭湯によっては千代田区など周辺地域に埋もれず全てビル化している地域もあるが、そこでは銭湯が皇居外周マラソンの拠点となり人を集めている。今尚もって銭湯は地域に適応し、都市に安らぎを提供する施設として存在していることを伺えた。

参考文献・資料

- (1) 町田忍 (1994) : 風呂屋の富士山 フェアラオ出版
- (2) 山本清龍他 (2000) : 東京練馬区を事例とする銭湯の立地特性と空間構成に関する研究 ランドスケープ研究
- (3) 文京区都市計画部他 (2003) : 文京区土地利用・建物階数・建物構造現況図
- (4) 丸善株式会社 (2004) : 江戸明治東京重ね地図
- (5) 市街地区整備協議会他 (1972 他) : 東京都全住宅案内地図帳・港区・新宿区・文京区・渋谷区・中央区・千代田区
- (6) ゼンリン (2004・2005) ゼンリン住宅地図 TOKYO 新宿区 中央区 渋谷区 港区 千代田区 文京区
- (7) 町田忍 (2001) : 銭湯の謎 扶桑社
- (8) 文京区都市計画部他 (2003) : 文京区 新宿区 中央区 渋谷区 千代田区 港区用途地域図
- (9) 永井恵一他 (2004) : 東京 23 区内におけるキリスト教会の立地と地域活動に関する研究